国分寺音頭

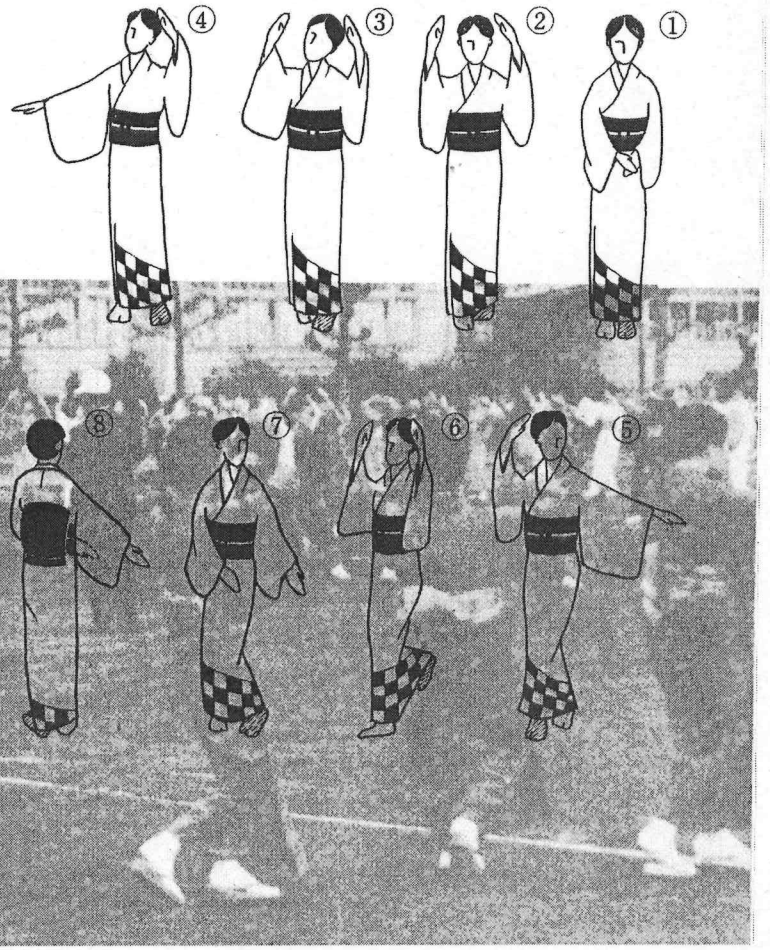
振付　河藤流家元
河藤たつろ

○○どなたにも踊れる、やさしい輪踊りです。
○○進み方は反時計まわりです。
○一つの踊りを、くりかえして踊りつづけますから、どこから踊りはじめてもけっこうです。
○たとえば、前奏八呼間、四小節〜を聞いてから踊りはじめますと、後奏の終わりが図解の⑥の形になります。

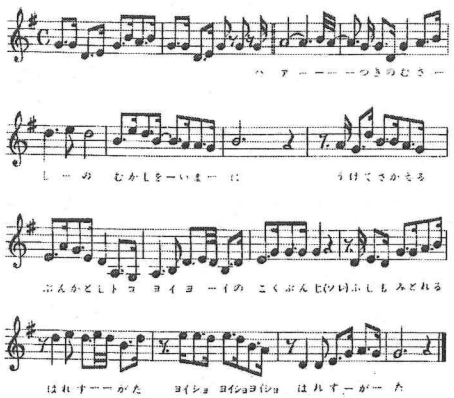
はじめ……円陣を作り、円心を向いて踊る用意
チョチョンがチョン……手拍子を三つ「チョチョチョンがチョン」というます①②
一つの……右足を左足の前に踏み入れ両手を（掌を上に向けて）円く上方にかざします
二つの……右足を元に引き戻して手拍子一回①②
三つの……左足を右足の前に踏み入れ「一つの」と同様に頭上作円③
四つの……左足を元に引き戻して手拍子一回①
五つの……右足を右横に開き、右手を平らに前にのばし、左手を頭の上にかざします④
六つの……左右の手を振りかえながら、左足を右足の前に交叉⑤
七つの、八つの……「五つの、六つの」の振りをくりかえします④⑤（ここまでは円心向きの踊作です）
九つ、十……右向け右の方向（進行方向）になり、右足から一二三四と早間に三歩前進、四歩目の左足を軽く後ろにあげます（ここの間に両手を一度下にお下ろしてから、円く頭上にかざします（掌上向き）⑥
十一……両掌を向かい合わせにして左下方に流し、⑦あがっている左足を後ろに引いておろします
十二……両手を右下方に流しながら右足後退⑧
十三……両手を左下方に流しながら左足後退⑦
十四……右足を左足に引きそろえながら円心向きになり手拍子一回①

以上で一踊りですから、これをくりかえして踊ります。（完）

国分寺音頭



国分寺音頭



国分寺市制定

国分寺音頭

西井八郎 作詞
長津義明 作曲

一、ハァー月のむさしの　昔を今に
うけて栄える　文化都市
トコ　ヨイヨイの　国分寺（ソレ）
富士も見とれる　晴れ姿
ヨイショ　ヨイショ　ヨイショ　晴れ姿

二、ハァー抹めはうれしや　あなたとわたし
色もはんのり　紅の頬
トコ　ヨイヨイの　国分寺（ソレ）
花の都の　となり組
ヨイショ　ヨイショ　ヨイショ　となり組

三、ハァー見たか聞いたか　ご存知ないか
雨民鎮其の　合い言葉
トコ　ヨイヨイの　国分寺（ソレ）
かわす笑顔に　森の風
ヨイショ　ヨイショ　ヨイショ　森の風

四、ハァー「要松の本　窟巻遺で
紅の化粧すりゃ　恋ヶ窪
トコ　ヨイヨイの　国分寺（ソレ）
古い歴史の　夢のあと
ヨイショ　ヨイショ　ヨイショ　夢のあと

五、ハァーまちの広場で　工場の風で
歌がはずめば　気もはずめ
トコ　ヨイヨイの　国分寺（ソレ）
恋に実金の　丸い月
ヨイショ　ヨイショ　ヨイショ　丸い月

国分寺市制定

国分寺小唄

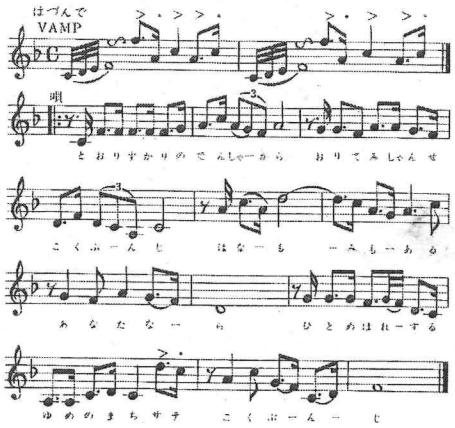
西井八郎 作詞
久慈ひろし 作曲

一、通りすがりの　電車から
降りて見しゃえせ　国分寺
花し実もある　あなたなら
一目ほれする　夢の町　国分寺

二、今も昔も　かわりゃせぬ
人の情と　お月さま
あなただけ待つ　一叢松
わたしゃいとしい　サテ　国分寺

三、一目見たとき　好きになり
嫁に来ました　国分寺さ
妻といわれる　しあわせの
胸が燃えます　このわたし
サテ　国分寺

四、あって別れて　いるうちに
いつの間にやら　恋ケ窪
若い二人の　まごころが
花と咲きます　パラダイス
サテ　国分寺

五、うわさばなしを　たてられて
うれしはずかし　国分寺
昼の日中に　よりそって
風にゆれてる　アドバルーン
サテ　国分寺

国分寺小唄